

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴[†]

年度が変わり第 1 回目の TOM の発刊です。本号は本来ならば前年度に発刊されるべきものでしたが、編集作業が遅れ、年度繰り越しになってしまったことを最初にお詫びします。実は今日現在、次の TOM13 掲載論文は決まっており、次回はすぐにでも刊行されます。また、昨年 10 月に開催されたシンポジウムの特集号も順調に編集が進んでおり、その次の TOM14 も夏くらいには編集作業が終わるものと考えています。

TOM12 では、2003 年 9 月の MPS46 (広島)、2004 年 3 月の MPS48 (下呂温泉)、2004 年 5 月の MPS49 (奈良) からそれぞれ 1 本、2004 年 9 月の MPS51 (沖縄) から 2 本、2004 年 12 月の MPS52 (東京) から 6 本、2003 年 10 月に開催された第 10 回 MPS シンポジウム「並列分散処理による問題解決シンポジウム」から 3 本のオリジナル論文と、MPS49、MPS52 からそれぞれ 1 本の事例紹介論文の合計 16 編を掲載しています。MPS49-52 (MPS50 は国際会議との共催につき TOM への投稿はありません) の研究会連動投稿論文の採録論文数/投稿論文数は、2/3、4/8、9/17 で、シンポジウム特集は 3/9 で、採択率は 49% となります。研究会連動だけの採択率は 54% です。

TOM のこれまでの通算の採択率を計算しますと、次のようになります。

- TOM1-10 総計=138/249 = 55.42%
- TOM1-11 総計=149/273 = 54.58%
- TOM1-12 総計=164/301 = 54.48%

今回特記すべきことは、MPS52 での投稿の多さです。年末の忙しい中、23 件の講演申し込みがあり、TOM への投稿は再投稿 2 件を含む 17 件にのぼりました。また、このときは懇親会で学生さんたちが宴会芸を披露する等、研究会としても大いに盛り上がりました。その宴会芸があまりに力作だったため、出席者の間で、

TOM の判定には宴会芸点がついているのでは？というまことしやかな噂まで流れましたが、そんなことはありません(笑)。

今号の採録論文 16 編の担当編集委員は、廣安知之、城和貴、北栄輔、庄野逸、古谷博史、古瀬慶博、小林聡、馬場謙介、木下敬介、藤本典幸、笹倉万里子となっています。特に廣安先生にはシンポジウム特集論文の担当をしていただき、ありがとうございました。今年度は編集委員の数を大幅に増やし、特定の委員に負荷が集中しないように配慮しようと考えています。

TOM12 に掲載された論文は、最初の 3 編がシンポジウム特集、次の 11 編が通常のオリジナル論文、最後の 2 編が事例紹介論文です。いずれもこれまで同様多分野にわたっています。特に今回は金融関連の事例紹介論文から、並列処理に関するシンポジウム特集論文まで掲載されており、今まで以上に面白い内容になったと自負しております。

平成 11 年 2 月に第 1 号が発刊してから 6 年目に突入しました。最初の 3 年間は年 1 号でしたが、平成 13 年度、平成 14 年度は年 2 号、平成 15 年度は年 3 号でしたが、平成 16 年度は編集作業の遅延が原因で 1 号しか刊行できなかったのは前述のとおりです。その反動で平成 17 年度は 4 号刊行できるのではないかと考えています。配布部数につきましては、これまでどおり 1,000 部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらでもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべて WWW ページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>) よりたどることができますので、MPS 研究会および論文誌 TOM に関しては、そちらをご参照くださいますようお願い申し上げます。

[†] 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学